

ぶどうの木



第274号 2026年 5月号

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2026年4月26日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL : 03-3414-5772
FAX : 03-3414-5778



『命の共同体』

牧師 広田叔弘

そこで神は、御自分の望みのままに、体の一つ一つの部分を置かれたのです。すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。

コリントの信徒への手紙一 12章18と20節

私が中学生のころでした。『ビジョン討論会』というテレビ番組がありました。深夜の放送でした。ジャーナリストが司会者になって、立場の異なる政治家たちがそれぞれの主張を展開して議論を交わします。内容のある番組でした。ある日の放送で、名前は忘れたのですが、ひとりの政治家がはっきり言いしました。「政治家の仕事は、戦争を起こさないことと失業者を出さないことだ」この言葉を聞いてとても納得したことを覚えています。

ペルシャ湾封鎖の影響は、燃料や石油製品のみにとどまらないということです。湾岸諸国は穀物の肥料を産出しているそうで、このままであれば、世界的な食糧危機に襲われる危険があると報じられていました。

合衆国の大統領は自国第一主義を掲げています。大学生と触れ合う機会がありますが、彼らから政治の話を書くことはありません。自身の問題に心は満たされているように見え

ます。自分のことが大事なのは当然です。しかし人間の営みは、他者との協力がなければ成り立たないことも、誰もが知っている事実です。

パウロは教会を人体にたとえています。足があつて、耳があつて、目があつて、異なる部分が集まって一つの体が出来ています。教会もこれと同じだというわけです。述べられているのは、単なるものたえではありません。パウロはここに、神の深い知恵を認めています。異なる者たちが集まって、互いに生かし合つて生きる摂理の不思議です。

ウクライナは世界的な小麦の生産国です。ペルシャ湾は最も重要な海路。世界は繋がっています。戦争によつて他国を滅ぼすことは、そのまま自国を滅ぼすことになりす。戦争による勝者も、敗者も、ない時代でしょう。

十戒には「殺してはならない」とあります。一人を殺せば、報復の連鎖が始まって多くの人々が死ぬことになるからです。そして主イエスは「互いに愛し合いなさい」と命じています。嫌いな人を好きになることではないでしょう。相手を理解し、共に生きることができる道を探し出していくことです。

神さまからもらった命は、繋がっている命です。生かし合わないと生きられない命です。